第六十回中部日本高等学校演劇大会参加作品

滝　高　等　学　校

# イ＝ストーリー

作　瀧　源作

連絡先
滝高等学校
〒四八三―八四一八
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二一二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五―二十五
電話（〇五六八）六一―七九九九

キャスト（男６人、女５人、他に男女数人）

２年Ａ組生徒

響　　悠　人

將　充　　絵里香

大　佑　　弘　樹

ロ　ミ　　さくら

ほなみ

２年Ａ組担任の先生（男）

英語の先生（女）

他クラスの生徒

（数人・転換要員兼ねる）

一場

緞帳が上がると教室シーン。下手に黒板、上手に掃除道具入れ等、正面奥には人が乗れる壁のような高い台。
多数の生徒が銃を撃つ仕草をしながら口々に「バン」などと叫びあっている。机を三段に積み上げてその上に立っている者もいる。そこへ先生登場。みんな静まる。机上の生徒が先生に向かって「バン」。生徒たち机を並べ始める。

先生　何だ、さっきのは？
ロミ　西部劇です。
さくら　荒野のガンマン。
先生　隣のクラスの奴らも一緒にか？
絵里香　ガンマンだらけの西部劇。
先生　お前らは幼稚園児か？
響　何で？
先生　机やイスを山のように積み上げて、パンパンパンパン撃ちまくって。
さくら　十数えたら生き返れるんだよ。
先生　それが子供だっていうんだよ。昨日は何だ？
大佑　宇宙戦争です。
さくら　スターウォーズ。
先生　お前の役は？
さくら　ヨーダ。
先生　よく似合ってるよ。毎日毎日朝っぱらから色んなクラスのヤツを引きずりこんで。学校は勉強するところだぞ。
響　勉強もするところです。
先生　あとは？
さくら　遊ぶ。
將充　よく寝る。
絵里香　楽しい男女交際。

---

先生　それもあるかもしれない。しかし、第一は勉強するところだ。その勉強の道具を山のように積み重ねて遊んでいるとはどういうことだ。
響　軽く運動でもしようと思って。
將充　みんなでスキンシップを。
さくら　男さわりまくり。
大佑　そこから友情が生まれるんです。
先生　さわりまくってか？
大佑　はい。
先生　じゃあ俺も入るぞ。
全員　バツ。
悠人、登場。
悠人　おはようございます。
先生　悠人、今日は何だ？
悠人　校門が閉まっていたんです。
先生　遅刻すれば閉まってるに決まってるだろ。
悠人　なんだ、そうだったのか。
ロミ　悠人、そういうときは自分で校門を開けなさい。
悠人　はい。
ほなみ、登場。
ほなみ　おはようございます。
先生　ほなみ、今日はなんだ？
ほなみ　マフィアに追われてました。
先生　ご苦労様、お前たちは毎日毎日遅刻してるじゃないか。一度くらい全員そろうことはないのか。
弘樹、登場。
弘樹　おはようございます。
先生　弘樹、今日はどうした。
弘樹　自転車に乗り遅れました。
先生　はいはい。…いいか、さっきもみんなに言ったように、ここは勉強しに

来るところ、遊ぶところじゃない。ましてや遅刻なんて以ての外。お前たちはこの学校に入りたくて入学してきたんだろう。それなのに、なんでお前達は、ちゃんばらごっこ、西部劇、宇宙戦争、他にもいっぱい、遊んでばかりいるんだ。

悠人　先生、俺、この学校に来たくて来たわけじゃない。

響　他に行くとこがなかったんだよな。

さくら　全部落ちちゃったの？

悠人　お前と同じ。

さくら　よく分かるわ。

先生　親御さんに入学金やメシ代だって払ってもらって、一生懸命勉強しようとする気持ちはないのか。

全員　ない。

絵里香　先生、何をそんなに怒ってるの？

先生　怒ってない。

ほなみ　おなかすいてんじゃない？

先生　すいてない。

さくら　どうして太ってるの？

先生　太ってない。お前たちは感謝の気持ちがないからそうやってバカばっかりやって遊んでるんだ。物に対する感謝の気持ちがあれば、そんなことはしないと思う。

響　親に感謝しなきゃいけないんですか？

ロミ　机やイスに感謝しなくちゃいけないんですか？

先生　感謝しなくちゃいけない。

ほなみ　先生は感謝してるの？

先生　もちろん。

悠人　何に？

先生　黒板に感謝してる。

全員　えー？

先生　チョークに感謝してる。

---

全員　いー！

先生　教卓にも感謝してる。

全員　うそー！

先生　感謝してるからこそ、お前たちがこうやってバカばっかりして遊んでるのを見ると先生は情けないんだ。

さくら　情けないって言われてるわよ。

将充　オレー？

先生　お前もだ、さくら。

さくら　はーい。

先生　いいか？机には机の神様、イスにはイスの神様がいる。その神様たちを大事にしないからお前たちは全員成績が悪いんだ。

ロミ　感謝すれば成績がよくなるんですか？

先生　なる。

絵里香　神様っているんですか？

先生　いる。

さくら　見えません。（教卓の上に乗っていて下を覗き込みながら）

先生　パンツが見えてる。神様は見えるんじゃない、心の中にいるんだ。

弘樹　先生、宗教臭い。

将充　新興宗教だ。

大佑　ツクエトイス教ですか？

ほなみ　変な宗教。

ロミ　先生は私たちに宗教を押し付けるんですか？

先生　そんなつもりはない。お前たちが机とイスに感謝することによって成績が上がるといいたかったんだ。

将充　別に関係ないじゃん。

絵里香　こんな机とイス大事にしなくたって成績良くなるし。

先生　本当だな？そう思う者手を挙げろ。

全員　はい。（全員手を挙げる）

弘樹　はい。（一人遅れて）

先生　よーし、わかった。俺にも考えがある。室長、号令！
ロミ　起立、礼。
先生　お前ら明日覚悟しとけよ。
全員　はい。
弘樹　はい。

暗転

二場

翌朝の教室。机とイスが一つずつあるのみ。

悠人、登場。

悠人　一番乗り。…クラス間違えたかな？
イスと机を探しに廊下一周。絵里香、登場。
絵里香　おはよう。
悠人　おはよう。
絵里香　何これ？今日、腕相撲でもやるの？
悠人　あ、そうかも。
絵里香　よし、じゃあやろうか。せーの。
二人腕相撲を始める。絵里香が悠人の腕を倒し、勢い余って悠人倒れる。
絵里香　ごめん、大丈夫？（倒れた悠人にかぶさるようにして）
悠人　痛ってぇ。
大佑、登場。
大佑　おはようございます。（二人を見て）お邪魔しました。
悠&絵　違う。
大佑　お構いなく。
絵里香　変なこと想像してたでしょ？
大佑　変なこととしてたでしょ？
悠人　それは違う。

---

大佑　じゃぁ気持ちいいこと？
絵里香　何考えてんのよ。
大佑　そんなこと恥ずかしくて言えませんよ。
悠人　そうじゃなくて、机とイスが一つしかないんだよ。
大佑　あ、ホントだ。
ほなみ、登場。
ほなみ　おはよう。ねぇ、C組の連中が『今日はやらないのか？』って言ってたわよ。
絵里香　何で？
ほなみ　だって机とイスが一つしかないから…ってホントにないんだ。
悠人　あいつら早起きだなぁ。
大佑　もう知ってたんですね。
ほなみ　『今日はC組でやるか』って言ってたわよ。
悠人　それどころじゃないだろ。うちのクラスの机とイスは一体どこにいったんだ？
ほなみ　知らない。
絵里香　他のクラスの連中にあたしたちの机とイスどこにいったか聞いてない？
ほなみ　何も言ってなかったから知らないと思うわ。
大佑　消えた机とイス…まるでサスペンスですね。
さくら、登場。
さくら　おはよう。
全員　お前が犯人だ。（さくらを指差しながら）
さくら　へぇ～私が悪ぅございました～。
悠人　証拠は全部揃っているんだ。（さくらをイスに座らせて）
絵里香　泣いてごまかそうったってそうはいかないわよ。
悠人　全てお見通しなんだよ。
さくら　旦那、勘弁してくだせぇ。
ほなみ　お昼はカツ丼でいいか？
さくら　出来たら上の大盛りで。

大佑　国では、おとっつぁんやおっかさんが泣いているぞ。
さくら　おとっつあぁん！何、今日は刑事モノ？
絵里香　机とイスがなくなってるのよ。
さくら　あ、ホントだ。どうしたの？
大佑　それが分からないからミステリーなんです。
さくら　私、てっきり刑事ドラマかなんかやってるんだと思っちゃった。
ほなみ　ホントあんた単純ね。
さくら　おかげさまで。
響&将充、登場。
将充　あ、やっぱりない。
悠人　何で知ってんだよ。
響　他のクラスのヤツに俺らのクラスの机とイスがなくなってるって言われたんだよ。
響&将充　さくら、お前が犯人だろ。
さくら　旦那ぁ、まだカツ丼食べてないです。
悠人　他のクラスの奴らも全部知ってるってことだな。
響　何でこんなことになってるんだ。
絵里香　分からないから困ってるの。
大佑　ホントにミステリアスですね。
ほなみ　どこにもないの？
悠人　ない。
さくら　よく探した？
悠人　探した。
将充　でも、何で一組だけ残ってるんだ？
ほなみ　きっと重いから一組だけ持っていき忘れたんだよ。
さくら　ホントあんた単純ね。
ほなみ　おかげさまで。
ロミ、登場。
ロミ　何これ？さくら、これどうしたの？

---

さくら　カツ丼が上でイスがサスペンスで机がミステリアスなの。
ロミ　さくら。
さくら　旦那ぁ。
絵里香　朝、悠人が来たら教室に机とイスが一組しかなかったの。
ロミ　そうなの？
絵里香　腕相撲して。
悠人　俺が負けて。
絵里香　勘違いされて。
大佑　やらしかったです…とっても。
ロミ　全然分からないわよ。
響　つまり、朝、教室に来たら机一つとイス一つ、それ以外は全てなくなった。そういうことだよ。
ロミ　なんで？
絵里香　それが分からないってさっきから言ってるでしょ。
ロミ　先生じゃない？
ほなみ　あ、きっとそうだ。
将充　先生が何のために？
ロミ　昨日、言ってたじゃない。『俺にも考えがある』って。
さくら　それがこれなの？
ロミ　あたしたちは机とイスを大事にしないって言った。物に感謝する心がないって言った。
将充　だって机とイスに感謝したってしょうがないじゃん。
大佑　だから、将充君、机とイスが要らないって言いましたもんね。
将充　お前も言っただろ。
大佑　おっしゃるとおりです。
悠人　じゃあなんだ、先生の仕返しか？
絵里香　仕返しするようなタイプじゃないけどね。
さくら　人間というのは分からないわよ。
ほなみ　テレビドラマにもよくあるもんね。

大佑　人間の心が色んなドラマを作る。それこそがサスペンスです。
絵里香　黙れ。
大佑　はい。
ロミ　でも何で一組だけあるの？
悠人　それが分からないんだよ。
ロミ　先生は誰を座らせる気なの？
将充　そりゃ一番頭が悪いやつだよ。
響　何で？
将充　席に座って、ちゃんと勉強しなきゃいけないから。
ロミ　あっても勉強しないでしょ。
将充　そうだな。
ロミ　だったら、一番勉強が出来る私が座るべきよ。
さくら　あ、これさくらのマーク！だからこれあたしの机。
絵里香　私の位置に近いから、これは私の。
将充　実は俺、痔なんだ。
悠人　痔は立ってろ。
将充　はい。
響　ここは一つ、じゃんけんしようぜ、公平に。
全員　最初はグー、じゃんけんポン、あいこでしょ、あいこでしょ。
先生　先生、登場。
全員　おはよう。
先生　先生！
先生　机やイスに登っちゃいかんと言っただろ。
先生　生徒たち一斉に騒ぐ。
先生　やかましい。
弘樹　弘樹、登場。
全員　おはようございます。（すぐにイスに座る）
弘樹　弘樹。
先生　生徒たち騒ぎ、弘樹が座った机とイス引く。

---

弘樹　とっちゃいやん。
ロミ　弘樹、あんた何やってんの？
弘樹　座ってる。
悠人　何でそこに座ってんのかって聞いてんだよ。
弘樹　ここにイスがあったから。
響　お前のじゃないだろ。
弘樹　じゃあ、誰の？
さくら　それを今、決めてるの。
弘樹　ご苦労様。
ロミ　先生、一体どういうことですか？
先生　昨日、お前たち『机とイスいらない』と言っただろ？
大佑　確かに僕たちそう言いましたけど。
さくら　あるに越したことはない。
将充　先生、イタズラ？それとも仕返し？
先生　そのどちらでもない。
ほなみ　じゃあ、私の机とイス返して。
先生　昨日、机とイスいらないと言った者、手を挙げろ。
全員、手を挙げる。
先生　下ろせ。お前たちの言う通りにしてやった。
悠人　じゃあ、何で一組だけあるんだよ。
先生　全く無しじゃ芸がないだろう。
弘樹　先生、僕はゲイじゃありません。
ロミ　うるさい。だったら他のみんなはどうすればいいんですか？
先生　好きにしなさい。自分で考えることです。お前たちにとって机とイスは何で必要なんですか？
将充　勉強するためです。
先生　嘘っぽいな。
絵里香　座るためです。
先生　下に座ればいいじゃない。

さくら　疲れる。
先生　寝転がってもいいぞ。
響　じゃあ、先生、この教室の中だったらどこにいても、どんな格好してもいいんだね？
先生　あぁいいよ、好きにしなさい。
　将充、舞台奥の高い台の上に登る。
将充　あぁ分かった。先生、俺、今日からここの上で授業受けるよ。
先生　いいよ。
さくら　じゃあ、さくらもここの上。さくら前からここ登りたかったんだよねーって…怖い。
絵里香　怖かったら降りてくればいいじゃない。
さくら　降りられない。
絵里香　だったら、登りなさい。
さくら　はい。
ロミ　先生、こんなの理不尽です。
先生　どこが？
ロミ　あたしたちにちゃんとした授業を受けさせて下さい。
先生　机とイスがなくたって、ちゃんと勉強出来ると言ったのはお前たちだろ。
ロミ　あれは言葉の綾です。
先生　しばらくの間、2年A組は、この机とイスだけで授業を受けてもらう。他の先生にも伝えておく。
全員　先生。
ほなみ　先生やだー。
大佑　これは異常です。
先生　すべてはミステリアス。今日の連絡事項はない。室長、号令。
ロミ　起立、礼。
先生　健闘を祈る。
　先生、退場。
響　どうすんだよ。

---

悠人　好きなとこ行くしかないじゃん。
将充　俺はここ渡さないよ。
絵里香　私、座る。（机の後ろの床に座る）
大佑　じゃあ、僕も座ります。
ほなみ　え～座るの～？
響　じゃあ、俺は寝っころがるよ。
悠人　弘樹、代わってくれるな？
弘樹　でも…。
悠人　どけっ。
弘樹　はい。
絵里香　ロミ、あんたどうすんの？
ロミ　こんな汚いとこ座れる訳ないじゃない。
　ロミ、悠人の前の机に座る。
悠人　何でお前、俺の机の上に座るんだよ。
ロミ　何か文句ある？
悠人　一番早く来た者に、ここに座る権利があるんだよ。
ロミ　権利？はぁ？
悠人　なんだ、お前のケツを拝んで授業を受けろっていうのか？
ロミ　しっかり拝め。
悠人　立派。
　チャイム。
将充　最初、何だっけ？
絵里香　英語。
ほなみ　古瀬先生だ。
さくら　怒られないかなぁ。
ロミ　大丈夫。担任が決めたことだから。
悠人　どうなったって知らないよ。
ロミ　もうどうにでもなれ！
　古瀬先生、登場。

古瀬先生　Good morning everyone.
全員　Good morning.
古瀬先生　弘樹、どけ。（教卓の上に座っている弘樹に向かい）
弘樹　はい。（降りようとするが、足が届かずジタバタする）
古瀬先生　じゃあ、室長さん号令かけて。
ロミ　起立、礼、着席。
弘樹　先生、降りられません。
古瀬先生　じゃあ、そのままでいいわ。
弘樹　はい。
古瀬先生　にしてもすごい状態ね。
ほなみ　良い意味で？
古瀬先生　悪い意味で。（床に寝転がっている響きに）響君、そんな状態で授業受けられるの？
響　大丈夫です。
古瀬先生　でも寝るな。
響　はい。
古瀬先生　さくらちゃん、先生の声聞こえますか？（台上のさくらに向かって）
さくら　おいしかったです。
古瀬先生　何、食べたの？
さくら　カツ丼。
古瀬先生　聞こえてるじゃない。
絵里香　先生、悠人がでかくて見えません。
悠人　先生、オケツがでかくて見えません。
古瀬先生　ロミ、ダイエットしなさい。
ロミ　頑張ります。
古瀬先生　じゃあ、將充君、十六ページ三行目から読んで。
將充　へ、ヘーカメホメ…。
古瀬先生　もういい。次。ロミちゃん読んで。
ロミ　He came home. He opened the door. His friend kissed his mother. He said, "Oh, no."
古瀬先生　はい、すばらしい。じゃあ次、大佑君、訳してみて下さい。
大佑　彼帰るよ家に。彼開けるんだドア。彼のフレンドチューするよ彼おかん。彼言う、"オーノー"。
古瀬先生　まぁいいわ。じゃあ、みんな、先生の後に続いて読んで下さい。
全員　はい。
古瀬先生　He came home.
全員　He came home.
古瀬先生　He opened the door.
全員　He opened the door.
古瀬先生　His friend kissed his mother.
全員　His friend kissed his mother.
古瀬先生　He said.
全員　He said.

みんなが読んでいる間に、響が床に仰向けになったまま先生に近づき、下から覗く。

古瀬先生　Oh, no.（響きの頭を踏みつける）
全員　Oh, no.（全員ポーズ）

暗転

三場

朝の教室。

さくら、登場。
さくら　やったぁ。
絵里香、登場。さくら、イスに座る。
絵里香　何座ってんのよ。

机引っ張り合う。さくらが勝つ。
さくら　めっ！（絵里香をにらむ）
絵里香、回り込む。さくら、机を動かす。
さくら　めっ！
絵里香　いいもんねーあたし教卓あるからー。（教卓の上に座る）
さくら　ずるいー。
絵里香、教卓の上に立ち上がる。
絵里香　私の方が高いー。うらやましいでしょー。
さくら　う～。（イスを机の上に乗せる）
絵里香　無理。
さくら、イスを動かす。
絵里香　無理。
さくら、イスを動かす。
絵里香　いい加減にしなさい。
さくら　うぇーん。
さくら、イスを戻して横に立つ。絵里香、座ろうとする。さくら、先に座る。
絵里香　さくら、あれ。（指差す）
さくら　どれー？
さくら立って、指された方を見る。絵里香、イスに座る。
さくら　いいもんねー。これは、さくらの机だもんねー。（机にしがみつく）
絵里香　ふーん。いい加減にしなさい。（さくらのスカートめくって叩く）
さくら　レディーに向かって何するのよ。
絵里香　あんたの一体どこがレディーなのよ。
さくら　ぶぅっ。
絵里香　レディーはこんなことしません。
さくら　絵里香ちゃんだってレディーじゃないでしょ。
絵里香とさくら、にらみ合う。大佑、登場。
大佑　おはようございます・・・お邪魔しました。
大佑、退場。続いて、絵里香・さくら、退場。

---

机とイスだけがある教室に、生徒が次々と入っては出て行く。机とイスを取り合う様子をマイムでギャグっぽく示す。メインキャスト以外の生徒も登場。小道具も適当に使う。

響、登場してイスに座る。弘樹、登場し、響の膝の上に座る。以下、メインキャストが次々に登場し、前の人の膝の上に座っていく。

将充、登場し、さくらの膝の上に座ろうとする。さくら、将充にかんちょう。
将充、叫ぶ。
暗転

## 四場

朝の教室。机とイスは一つもない。

全員　ない！
絵里香　何で？
ロミ　先生じゃない？
ほなみ　何で先生なの？
響　今度はどういうつもりだよ。
絵里香　また誰か悪いことしたんじゃないの。
将充　あー俺もうやだ。
悠人　俺もう疲れた。
絵里香　さくら、お前が犯人だ！
さくら　えっ！
ほなみ　今日もカツ丼でいいか？
さくら　今日は天丼の上で。
悠人　この前科者が。

さくら　旦那ぁ。（拝むそぶり）
ろみ　ふざけないで！ほんとは誰なのよ。
響　将充、お前だろ。
将充　俺じゃねぇよ。悠人だろ。
全員騒ぐ中、弘樹がロープでしばった机を背負い、イスを胸につけて登場。
弘樹　おはよう。
悠人　弘樹。
弘樹　どうしたの？
全員、弘樹の周りに駆け寄る。
響　それどうしたんだよ。
弘樹　持って帰った。
絵里香　何のために？
弘樹　座ったことないから。
ほなみ　私だって座ったことない。
弘樹　だって座りたかったんだもん。
ロミ　早く来ればいいじゃない。
弘樹　僕、起きられない。
さくら　だから持って帰ったの？
弘樹　うん。昨日からこの机とイスは僕のもの。
生徒たちロ々に弘樹をなじる。
悠人　待て。弘樹をそんなにいじめるな。
弘樹　悠人君、ありがとう。
絵里香　やかましい。それを置け。
弘樹　はい。（亀のように仰向けになって、机を降ろす）
悠人　とにかく、イスが一組しかないということが問題なんだ。
ほなみ　そうよね、先生が悪いのよ。
悠人　いや違う。
ロミ　机とイスがいらないって言ったのは私たちよ。
ほなみ　じゃあ、私たちたちが悪いの？

---

悠人　そういうことになるな。
響　こういう風にしたのは先生だぞ。
絵里香　でも原因を作ったのは私たち。
さくら　机やイスを使って遊んでいた私たちがいけないんだよね。
絵里香　そう、お前が悪い。
さくら　犯人は私でございます。
弘樹　うるさい。
大佑　とにかく、僕たちには机とイスが必要ですよ。
将充　なんか上にいると仲間はずれみたいで…寂しい。
さくら　ここにいるとすごく暑いの。
ロミ　ねぇ悠人…みんなで先生に頼もうか。
悠人　そうだな。机やイスをこんなに取り合うなんて思ってもみなかったよ。
将充　ないとなると結構不便なもんだな。
弘樹　感謝しろよ。
将充　はい。
大佑　けど、みんなで頼んだだけであっさり返してくれますかね。
ロミ　大丈夫。
大佑　どうして？
ロミ　感謝している振りをすればいいのよ。
絵里香　芝居するって事？
ロミ　そう。
さくら　それいいね！
ほなみ　感謝してるって言ったら、きっと先生返してくれるよね。
大佑　間違いありません。
悠人　じゃあ、それで行くか。
全員　うん。
弘樹　頑張って下さい。
悠人　お前もやるんだよ。
弘樹　はい。

先生、登場。

先生　おはよう。
全員　おはようございます。
先生　何だお前ら、今日も遅刻なしか？何か気持ち悪いなぁ。
悠人　先生、僕たち心を入れ替えたんです。
ロミ　机とイスの大切さに気付きました。
絵里香　机とイスの神様って本当にいるんですね。
先生　おまえは神様の上に乗るのか。
絵里香　神様が乗れっていいました。
先生　どんな神だ？
絵里香　言い訳の神。
先生　降りろ。
絵里香　はい。
先生　本当に感謝できるようになったのか？
悠人　先生、これが嘘をついてる瞳に見えますか？
全員　キラキラー。
先生　濁ってる。
全員　えっ！
先生　どうもお前たちの言うことは嘘臭いな。
絵里香　先生信じて下さいよ。
先生　感謝の意味が分かっているのか？
悠人　もちろんです。
大佑　机は生きているんです。
將充　イスも生きているんです。
ロミ　そこには命があるんです。
さくら　それらの命によって私たちは支えられているんです。
響　命を粗末にする奴なんか誰もいません。
悠人　すべてのものに命があるからこそ、僕たちはすべてのものに感謝しなければならないんです。

---

先生　何か哲学的になってきたな。
ほなみ　先生まだ気付かないんですか？
先生　何が？
絵里香　私たちがあるのは命が与えられたからです。
大佑　そう、生きているのは机やイスだけではありません。
さくら　先生、あそこの飛んでいるあの鳥さえも。
先生　どこだ？
ロミ　ほら、あそこ。（遠くを指差す）
弘樹　カーカー。
先生　カラスがか？
さくら　ゴミ袋が破られるのにも意味があるんです。
先生　じゃあ、カラスにも感謝しなくちゃいけないのか？
悠人　その通りです。カラスさん。
全員　ありがとう。
弘樹　アホーアホー。
先生　あいつ、俺を馬鹿にしてるぞ。
絵里香　いや、カラスがいるから私たちは生きられるんです。
悠人　黒板にだって命があるんです。
將充　あそこにあるロッカーだって
悠&將　ほら。
ほなみ　必要であるから生まれてきたんです。
悠&將　そうなんです。
先生　それは発明されたってことだろう。
響　違います。生まれてきたんです。
大佑　だからこそ感謝しなければならないんです。
先生　なんだかよく分からなくなってきたな。
先生　先生はこのネクタイに感謝してますか？
ロミ　これは一般常識としての・・・。
先生　一般常識で命の重さは量れません。
悠人

将充　必要だからこそ。
ほなみ　生まれてきたんです。
先生　いや、これは作られただけ…。
大佑　生まれてきたんです。
悠人　先生、生まれてきたものすべてに。
絵里香　感謝しなければならないんです。
先生　感謝というのはそんなに深い意味があったのか。
響　そうです。感謝というのは。
大佑　永遠の、永遠のテーマなのです。
先生　何か俺、身も心も洗われたような気がする。
弘樹　わかったか。
全員　はい。
ロミ　合掌。
全員、合掌。
先生　ようし分かった。お前たちがそこまで考えてくれたことが先生は嬉しい。
机とイスを返してやろう。校長室と生徒指導室にあるから取って来い。
さくら　先生、大好き。
絵里香　ホントありがとうございます。
先生　それにしてもお前たちがここまで変わるとはなぁ。
絵里香　先生がベテランだから。
さくら　先生はベテランのベランベラン。
絵里香　先生、彼女いないの？
さくら　あ、さくらね、この前、先生が女の人と二人で歩いているとこ見たよ。
絵里香　え、どんな人だった？
さくら　なんか先生にそっくりな人だった。
絵里香　先生って、デブ専だったんですか？
三人が話している間に、他の生徒たちが机とイスを運び並べる。
悠人　先生、机とイス返ってきましたよ。
先生　そうか、号令。

---

ロミ　起立、礼。
全員　おはようございます。
ロミ　着席。
絵里香、イスを倒す。
ロミ　絵里香、イスさんを大切に。
絵里香　イスさん、ごめんなさい。
ロミ　着席。
ほなみ　イスっていいよね。
さくら　何て素敵なの。
弘樹　机さん、好き。（机に頬擦りする）
先生　おい、将充、外れてるぞ。
将充　えっ？
先生　服装はちゃんとしておけ。
将充　ボタンさん、ごめんなさい。
さくら　あっ！蚊！
さくら、つぶそうとする。
絵里香　人殺し。
ロミ、吹く。
さくら　ロミちゃんありがとう。
ロミ　どういたしまして。
さくら　蚊さん、私の血を十分吸わせてあげられなくてごめんね。痒っ。
先生　そうだな、蚊の命は尊いもんな。
全員　はい。
先生　それじゃあ、今日の連絡書いておきます。
先生、チョークを落とし、チョークが折れる。
全員　あ。（生徒、立って指差す）
全員　ごめんなさいは。
先生　チョークさん、ごめんなさい。
全員　よし。

悠人、くしゃみをし、ちり紙で鼻をかもうとする。
絵里香　待った！ちり紙さんがかわいそう。
悠人　じゃあ、どうすればいいんだよ。
ロミ　さくら、手鼻してあげなさい。
さくら　手鼻って…手で？
ロミ　そう。
悠人　じゃあ、遠慮なく。（さくらの手で鼻をかむ）
悠人　あーすっきりした。
ロミ、ハンカチを差し出す。
絵里香　ハンカチさんがかわいそう。
ロミ　ハンカチさん、ごめんなさい。
さくら、床で手を拭こうとする。
ほなみ　床さんがかわいそう。
大佑　机さんがかわいそう。
ロミ　制服さんがかわいそう。
さくら　じゃあどうすればいいの？うえ～。
さくら、顔で手を拭く。
全員　よし。
響　でもちり紙ってさ、鼻かむもんじゃないの？
悠人　あ、そっか。（鼻をかむ）
さくら　これは～？
將充　てかてか光ってきれいだよ。
さくら　うう。
先生　それじゃあ連絡事項書いておけよ。
全員　はい。
先生　号令。
ロミ　起立、礼。
先生、退場。生徒たち一気にリラックス。
悠人　いやぁーみんな名演技だったな。

---

ロミ　先生、簡単にだまされちゃったね。
さくら　さくらの演技が上手だったから。
大佑　いや、みんなのチームワークが良かったおかげですよ。
悠人　まさか先生がチョークに向かって謝るなんて思ってもみなかったよな。
響　でも、机とイスが返ってきてホント良かったな。
絵里香　これでもうこんな芝居しなくて済むよね。
ロミ　は？何言ってんの？続けるに決まってるでしょ。
絵里香　何で？
ほなみ　そうしないと、また机とイス取られちゃうじゃない。
絵里香　勘弁してよ。もう戻ってきたから、これで終わり。
さくら　えーっ、さくら結構楽しかったのにー。
悠人　じゃあ、絵里香座りたくないの？
絵里香　座りたいよ。
ロミ　だったら芝居しなさいよ。
絵里香　こんな芝居ずっと続けられるの？ねぇ、弘樹？
弘樹　できるよ。
絵里香　本当に？
弘樹　無理。
大佑　絵里香さん、それは立派な脅迫です。
絵里香　黙れ。
大佑　はい。
ロミ　どうして続けられないって思うの？
絵里香　本当は感謝していないんだから、どっかで絶対にボロがでるよ。
悠人　だから完璧な演技をするんだろ。
先生、登場。
先生　ごめんごめん、忘れてた。…悠人、どうした？
悠人　何でもありません。
ロミ　どうしたんですか？
先生　この前やった実力テストを返し忘れてな。（配りながら）やっぱり机とイ

スがなかったから点数がよくなかったのかもしれません。しかし、机もイスも返してあげたんだから、これからはいっぱいいっぱい点数が上がることを先生は確信しています。返事は？

全員　はい。

先生　よし。弘樹、お前の答案用紙なかったぞ。あのとき確かテスト受けたよな？

弘樹　テスト中になくしました。

先生　そうか。誰か見つけたら拾っといてやってくれ。

全員　はい。

先生　号令。

ロミ　起立、礼。

悠人　弘樹。

ロミ・絵里香・弘樹以外、テストを丸めて捨てる。それを弘樹がゴミ箱で受けながら集める。

絵里香　何であんたたちテスト捨てるの？

ほなみ　だって悪かったんだもん。

絵里香　物への感謝は？

さくら　感謝してるからこそ、くしゃくしゃにしちゃうんだよね。

弘樹　かわいさ余って憎さ百倍。

悠人　第一あんな悪いテストとっておいたって何の役にも立たないし。

全員　うん。

絵里香　そんなに悪かったの？さくら、あんた何点？

さくら　九十二点。

絵里香　弘樹、見せなさいよ。

さくら　弘樹君、逃げて。

弘樹、台上に上がる。絵里香、悠人と響に通せんぼされる。

絵里香　開けゴマ。

悠人　はい。

響　どうぞ。

---

ほなみ　絵里香、プランクトンの侵害よ。

絵里香　プライバシーでしょ。

ほなみ　何が違うの？

絵里香　大きさとかよ！とにかく、弘樹テストよこしなさい！

大佑　何でそうまでして他人のテストを見たいんですか？

絵里香　あんたたちが反省しないから、私が反省させてあげるのよ。

悠＆響　絵里香、お前だいたいなぁ。

絵里香　黙れゴマ。

ロミ　はい。

絵里香　絵里香、それは暴力行為といっしょよ。

ロミ　何で？

絵里香　他人が嫌がることをしてるじゃない。

ロミ　人に嘘をつけって言うのも暴力行為じゃないの？

絵里香　私たちはお願いしてるだけじゃない。

ロミ　じゃあ、そのお願いをきいたらみんなの成績がよくなるとでもいうの？

さくら　そうよ。

絵里香　さくら、あんた何点？

さくら　九十七点。

絵里香　さっきと違うじゃない。

大佑　机とイスがなかったから、みんな勉強が出来なかったんです。

絵里香　机とイスがなくたって成績がよくなるって言ったの誰よ。

全員　お前だよ。

絵里香　そんなのどうだっていいの！あんたたちは、今この現実を知るべきなのよ！弘樹！

弘樹、絵里香に答案を渡す。

響　弘樹、裏切ったな。

大佑　あ、僕のプライバシーが。

絵里香　さくら十六点。

さくら　あー！
将充　さくら、悪っ。
絵里香　将充、七点。
悠人　お前の方が悪いじゃねぇか。
将充　ラッキーセブン。
ほなみ、さくらの答案を拾う。
ほなみ　何でマイナス十点されてるの？
さくら　名前のところにさくらのマーク書いちゃったの。
ほなみ　ホント、あんた単純ね。
響、ほなみの答案を拾う。
響　おい、ほなみ、お前、一一九二年に成立したの『鎌倉マフィア』ってお前、どんだけマフィア好きなんだよ。
ほなみ　だって歴史苦手なんだもん。
響　じゃあ、何なら得意なんだよ。
ほなみ　数学とか。
悠人　じゃあ、九九の七の段言ってみろよ。
ほなみ　しちいちが七、しちに十四、しちさん二十三、
悠人　違ぇよお前、バカじゃねぇの。
ほなみ　じゃあ、悠人言ってみてよ。
悠人　しちいちが七、しちに十四、しちさん…二十三だ。ごめん。
ロミ　二人ともバカね…。何、将充、あんた法隆寺造ったの『オレ』って。
将充　うん、俺、長生きなんだ。
ロミ　ていうか他の解答も全部『オレ』じゃない。
将充　他に書くことなんてないだろ。
全員　キモ。
絵里香　あんたたちホント、バカね。
ほなみ　絵里香は何点なのよ。
絵里香　私は普通だから見ても面白くないわよ。
弘樹　小澤絵里香、二十九点。

---

響　普通に悪いじゃねぇかよ。
ロミ　あんたもバカね。
絵里香　じゃあ、ロミは何点だったの？
ほなみ　八十八点。
絵里香　私だって地理ならそれくらい取れるわよ。
ロミ　じゃあ問題ね。日本列島は四つに分かれています。北海道、九州、四国、もう一つはなんでしょう？
絵里香　沖縄。
ロミ　あきれてものも言えないわね。
絵里香　じゃあどこなのよ？
ロミ　本州よ。
弘樹　バカ。
絵里香　そんなこと習ってない。
弘樹　バカ。
絵里香　あー…みんなだってバカじゃない。私はバカだし、芝居なんかできないの！
大佑　絵里香さん何が言いたいんですか？
絵里香　演技し続けるっていうなら、成績上げるって芝居もしなきゃいけないってことでしょ？こんなんで出来るわけないじゃない。
ほなみ　たかが芝居じゃない。
悠人　俺、小学生のとき、ずっと舞台に立ってたことあるんだぜ。
将充　すげー。
絵里香　何の役？
悠人　木。
将充　すげー。
さくら　さくらね、キャサリンやったの。
絵里香　キャサリンって誰よ。
さくら　舞台はね、アメリカのニューヨークなの。お母さんと二人暮らしだった心の澄んだ美しい少女、キャサリンは十九歳のとき，フランス貴族と恋

悠人　に落ちるの。愛してるわ。
將充　僕も愛してるよ。
ほなみ　かっこいい。
さくら　他にお芝居したことある人っているの？
全員　ロミちゃんはシンデレラやったんだよね。
將充　えっ？
悠人　そのときの王子様大変だったろうな。
響　俺だったら胃に穴が開くよ。
弘樹　そのときの王子様ってどんなやつ？
ロミ　はい。（手を挙げる）ねぇ、ロミ…。
弘樹　それ以上何か言ったら殺すわよ。
大佑　はい。
弘樹　僕も幼稚園のとき…。
絵里香　お前はいいよ。
ロミ　これじゃあ、誰も演技なんて出来そうにないわね。
全員　先生一人くらい騙すのなんてちょっと頑張れば大丈夫よ、ね？
絵里香　うん。
ほなみ　無理よ。
絵里香　絵里香、何、一人で意地張ってるのよ。
　意地でも何でもないわ。別に感謝もしてないのに嘘っぽい芝居をするっていうのが嫌なのよ。
ロミ　何で？それを続けることによって、私たちはずっと座ってられるのよ。
悠人　先生の性格だからさ、いつ何時また取り上げられるかわからないぞ。
響　一生懸命努力して返してもらったと思ったら、また取り上げられるなんてゴメンだもんな。
絵里香　へぇー響、あんたこの芝居続けるつもり？
響　もちろん。
大佑　確かに僕たちの芝居には無理があるかもしれません。でも、僕たちは目標に向かって努力することが大切なんです。

---

絵里香　続けられるの？
大佑　問題はそれなんです。
ロミ　絵里香、結局あんたどうしたいの？
絵里香　嘘の芝居したくないってことよ。
ロミ　じゃあ座らなくてもいいの？
絵里香　いいよ。嘘ついてまで座りたくないから。
將充　じゃあ、また床に座るっていうのか？
絵里香　そうよ。くだらない芝居続けるよりこの方がよっぽど居心地がいいわ。
さくら　すごい、絵里香ちゃん信念の人だ。
絵里香　嘘つきたくないだけよ。
さくら　さくらも嘘つきたくない。
絵里香　だったらあんたも座れ。
さくら　それは嫌。
絵里香　正直者でしょ。
さくら　でも…。
絵里香　キャサリンは正直者じゃなかったの？
さくら　はい。床さん、再びこんにちは。
大佑　二人だけ床に座ってるなんておかしいでしょ。
ロミ　みんなの意思に反するわ。
悠人　取りあげられないために芝居するだけのことだろ。もうちょっと付き合えよ。
響　一週間くらい続けてればさ、そのまんまになるって。
絵里香　だって感謝ってわかんないもん。
響　感謝ってさ、ものを大事にしてればいいんだよ。
絵里香　本当にそれでいいの？
響　そうだよ。
絵里香　なんか感謝の意味が違うと思う。
ほなみ　わかんなかったらわかんなかったで適当に嘘ついとけばいいじゃん。
將充　嘘も方便。

絵里香　方便の意味分かってるの？
将充　分かりません。
絵里香　感謝の意味は？
将充　もっと分かりません。
弘樹　バカ。
ロミ　あんたたちのわがままで先生に私たちまで疑われるじゃない。
大佑　そうですよ。みんなが感謝しているって言ったから先生は机とイスを返してくれたんです。絵里香さん、あなたの気持ちはよく分かりますけど。自分に嘘つくのと正直なの、あんたはどっちをとる？
絵里香　そりゃあ…。
大佑　正直だよね？
さくら　まぁ…。
大佑　嘘つくのって辛いもんね。
さくら　もちろん。
大佑　だったら座れ。
さくら　でも…。
大佑　座れ。
絵&さ　はい。
大佑　お前らバカじゃねぇの。
くに　何で？
さくら　机とイス欲しかったから、さっき並居したんだろ。
響　そうだよ。
さくら　返してもらって何で床に座ってるのよ。
ほなみ　信念の人だから。
さくら　何の信念だ？
悠人　正直さ。
さくら　正直をとるか嘘をとるか。
ロミ　えっ？
さくら　汚いのをとるか、きれいなのをとるか。さぁどっち!?
ロミ　さくら、きれいな方がいい。
さくら　さくらさん。
大佑　正直者はバカを見るのよ。
さくら　そんなぁ。
大佑　本当にバカ。
弘樹　絵里香さぁん。
大佑　近寄るな。
大佑　大佑、正直って難しいわね。
ロミ　はい。
大佑

先生、登場。

先生　あぁ、さっき言い忘れてたけどなぁ、今週の土曜日…、お前たち何やってんだ？
悠人　感謝の時間です。
先生　は？
ロミ　机さん、イスさん
全員　どうもありがとう。
弘樹　さらにバカ。

暗転

五場

昼休みの教室。上手に絵里香と大佑が床に座って弁当を食べている。他の生徒たちは中央に机を集め談笑しながら食べている。

響　美味いなぁ、さすが、イスに座ってとる食事は違うね。
ほなみ　ロミ、これ食べる？
ロミ　ありがとう。
将充　あ、俺の唐揚げ。
さくら　まずーい。

ほなみ　悠人君、ウインナー食べる？
悠人　ありがとう。でも俺、今、ダイエット中だから。
ロミ　ほなみって優しいのね。
ほなみ　だって私たちみんな仲間だもん。
さくら　仲間といっしょに食べるお弁当っておいしいね。
悠人　よせよ。何か嫌味言ってるみたいじゃないか。
全員　嫌味だって、あはははは。
大佑　絵里香さん、僕のアボガド食べます？
絵里香　いらん。
大佑　たくあん一つもらっていいですか？
絵里香　やらん。
大佑　明日、晴れますかね？
絵里香　知らん。
大佑　はっはっはっ…ホント楽しいですね。
ほなみ　絵里香、食べてるときくらいイスに座れば？
ロミ　そうやって食べてるとなんか犬みたい。
絵里香　誰が犬だって？
さくら　本当にそこで食べておいしいの？
絵里香　おいしいよ。
将充　やせ我慢してんじゃないの。
絵里香　腹に入ればみんないっしょ。
さくら　ねぇ、大佑君。
大佑　はい。
さくら　さっき言ってたアボガドまだ残ってる？
大佑　えぇ、おかずの半分アボガドです。
さくら　さくら、アボガド食べたことない。
絵&大　嘘っ！
さくら　見たこともない。
全員　嘘っ！

---

さくら　おいしいの？
弘樹　あれは美味い。
さくら　どんな味？
弘樹　知らん。
さくら　悠人君、どんな味がするの？
悠人　一言では言えないような、その、甘いような酸っぱいような…そんな感じだよ。
ロミ　あんたいつもいい加減ね。
大佑　さくらさん、よかったら一つどうですか？
さくら　いいの？
絵里香　さくら。
さくら　なぁに？
絵里香　嘘をとるか正直をとるか。
さくら　正直をとる。
絵里香　よし。
大佑　どうぞ。
さくら　ありがとう。わぁ生暖かくて気持ちが悪い。
ロミ　お弁当箱に入っていたアボガドなんて想像を絶するわね。
ほなみ　さくら、あんたまたそっち行っちゃうの？
さくら　好奇心には勝てない。
悠人　生暖かいアボガドなんかよく食えるな。
大佑　悠人君、杏仁豆腐の湯豆腐はどうですか？
絵里香、横取りしてつまむ。
絵里香　うまい。
全員　えっ？
悠人　おいしそう。
全員　えっ？
響　悠人、食い物に負けるつもりか？
さくら　悠人君、待って。

悠人　俺…男だから。
さくら　あなたに食べてもらいたいと思って大佑君は一生懸命作ってきたんだよ。
悠人　えっ？
大佑　あれはおかあさんが…。
（絵里香、大佑の口におにぎりを突っ込む）
さくら　徹夜までして愛を貫き通そうとしたの。
悠人　え。
さくら　愛を…無にしちゃダメ。
悠人　大佑。
大佑　は い。
悠人　本当か？
さくら　私たちは正直者の集まり。
悠人　正直っていいな。
将充　ただ食いたいだけだろ。
悠人　いや、愛に熱く燃えてるだけさ。
さくら　それは素敵。
悠人　でも、今、俺は杏仁豆腐の湯豆腐を食べることはできない。
さくら　どうして？
悠人　愛をとるか仲間をとるか迷っているからだ。
さくら　悠人君…。
悠人　大佑によろしく…。
大佑　うわーん。
悠人　ごめん。
さくら　悠人君、待って。悠人君、勝負しよう。
悠人　勝負？
さくら　男だったら勝負しよう。
悠人　何の？
さくら　嘘をとるか正直をとるか、男だったら勝負しよう…じゃんけんで。
悠人　男だったらか…。

---

さくら　私が勝ったら正直になって。そして、杏仁豆腐の湯豆腐を一緒に食べるの。
悠人　杏仁豆腐の湯豆腐…。俺にとって人生の別れ道となったな。
さくら　じゃあいくよ。最初はグー、ジャンケンポン。
悠人　負けた。
さくら　さぁ行こう。
悠人　よし行こう。
ロミ　悠人、今のジャンケンは後出しでしょ、ズルいわ。
さくら　悠人くんは正直になっただけ。
悠人　愛に邪魔はいらない。
大佑　悠人君…。
響　杏仁豆腐の湯豆腐なんて食えるか。
絵里香　愛に味なんて関係ないわ。
ほなみ　味方にするのが目的だったでしょ。
絵里香　悪いか。
将充　卑怯者！
大佑　まあまあみなさん、落ち着きましょうよ…。
将充　お前が弁当なんか作ってくるのが悪いんだろうが。
（将充、大佑を突き飛ばす。）
悠人　俺達の愛に何をするんだ。
絵里香　将充、あんたいつも暴力ばっかりふるって…いけないって分かってんの！？
将充　痛ってー！
さくら　愛は勝つ。
（生徒たち、もみあう。そこへ必殺シリーズの音楽鳴る。生徒たち止まり、辺りを見回す。先生、教卓の中から登場。）
先生　おい。
全員　先生…。
先生　杏仁豆腐の湯豆腐まだあるか？

全員　はい。
弘樹　あ、食べちゃった。
全員　えっ？

暗転

六場

放課後の教室。全員で掃除をしている。絵里香・弘樹は台の上。

絵里香　何でこんなとこまで掃除しなきゃいけないの。
さくら　だってまた床に座ることになったんだよ。ここ汚いじゃん。
絵里香　あんた一人でやればいいでしょ。
さくら　一人は寂しいもん。
絵里香　あ～もう、ちょっと、何で下は箒ばっかなの。ぞうきんは大佑だけじゃない。
ほなみ　汚いのやだ。
悠人　男が雑巾がけなんてできるか。
絵里香　ロミ、あんたいつも箒だよね。たまには雑巾やりなさいよ。
ロミ　はぁ？そんなことできるわけないでしょ。
絵里香　なんで？
ロミ　私の手が汚れるじゃない。
絵里香　机やイスに感謝してるんじゃないの？
ロミ　先生の前だけよそれは。
絵里香　なによそれ。
ロミ　あんたは床に座ってるんだからどうってことないでしょ。やりなさいよ。
絵里香　響、あんたは雑巾でもやってろ。（響に雑巾を投げる）
響　絵里香に殴りかかり、絵里香、響の箒を取る。
絵里香　何すんだよ。
響　へっ、バーカ。

---

響　バカって…弘樹、これやるよ。
弘樹　でも…。
響　やれ。
弘樹　はい。
さくら　さくらやっぱりきたないのやだぁ…悠人君、代わって。
悠人　えーやだよ。男って言ったらほうきだろ？
さくら　大佑君はあなたと雑巾がけがやりたかったら雑巾を選んだんだよ。
悠＆大　え？
さくら　愛は二人で磨かなきゃ。
大佑　え～。
悠人　大佑…。
大佑　悠人くん？
さくら　換えよ？
悠人　うん。
ほなみ　さくらやっぱりほうきの方がきれいでいいよね。
さくら　うん。
ロミ　弘樹、ちりとり。
弘樹　はい。
絵里香　弘樹、ちりとり。
弘樹　はい。
さくら　わぁー弘樹君の机ぴかぴか。
弘樹　すごいでしょ。
さくら　さくら、やっぱり雑巾の方がいい。
ロミ　ちょ、さくら。
さくら　きれいなのがいいの。さくらのマーク、さくらの机とイス…あったぁ！
　　どいてよ。
　　さくらに押されたほなみはイスの上に乗る。
ほなみ　なんで。
さくら　自分のを先にぴかぴかにしたいの。

ほなみ　他のとこからやればいいでしょ。
さくら　自分のところからやらないと意味がないでしょ。ほら、足も邪魔。なんでくつであがるの。
ほなみ　やめてってば！
ほなみ、机に乗る。必殺シリーズの音楽鳴る。先生、掃除道具ロッカーの中から登場。
先生　掃除しっかりやってるか？
ロミ　先生！
ロミ、ほなみを強引に机から降ろし、ほなみ、転ぶ。
先生　ほなみどうした？
ほなみ　ちょっと…。
ロミ　ほなみが机さんにぶつかったんです。ほなみ、何あんたぼぉっとしてるのよ。
ほなみ　え…。
ロミ　机さんがかわいそうじゃない。謝りなさい。
ほなみ　ごめんなさい。
先生　ほなみ大丈夫か？
ほなみ　はい。
先生　まぁ気をつけてな。また、後で来ます。
ロミ　はい。
先生、退場。
ほなみ　ロミ、今のは痛すぎ。
ロミ　ほなみがぼんやりしてるからよ。
ほなみ　だって突然だったんだもん。
さくら　ほなみちゃん大丈夫？
ほなみ　全然大丈夫。
悠人　ロミ、今のやりすぎじゃないのか。
ロミ　何か変だった？
響　突き落とすのは…なぁ。

---

将充　かわいそう。
ロミ　何よ、みんなして。まるで私が悪者みたいじゃない。
大佑　いや別にそういうわけじゃあ。
ロミ　だったら何？
大佑　ロミさんちょっとやりすぎだと思っただけです。
ロミ　どこが？
悠人　おまえも分かってんだろ。ちょっと度が過ぎたってことを。
将充　認めりゃいいじゃん。
ロミ　私は悪くない。
大佑　ロミさん、だいたいあなたはいつもいつも…。
ロミ　だってこうでもしなきゃ椅子に座れないじゃない。
悠人　だからってやっていいことと悪いことがあるんじゃないの？
ロミ　あんたたち椅子に座りたくないの？
響　そりゃ俺たちだって座りたいけどさぁ。
将充　ここまですることないんじゃね？
ほなみ　あ、でもロミは別に…あたし全然気にしてないし。
響　お前、足怪我したんだぞ？
ほなみ　それは私がぼぉっとしてたから。
ロミ　ほら、ほなみだってそう言ってるじゃない。
将充　でも普通に考えておかしいだろ。
ロミ　仕方ないでしょ。
さくら　じゃあ、ほなみちゃんが怪我したのも仕方ないことなの？
ロミ　そうよ。
響　お前、ほんとにそう思ってるの？
将充　バッカじゃねーの。
ロミ　はぁ？バカ？だったらあんたも絵里香たちと一緒に床に座れば？将充…座れば。
響　ああ、将充、行こうぜ。
将充　ああ。

ほなみ　待って。
響　ほなみ。
ほなみ　私が全部悪いの。
響　かばうな。
ほなみ　そんなにロミを責めないで。
ロミ　ほなみ、あんたわざとらしいわよ。何少女漫画の世界に浸ってんの。あたしをかばってくれてるつもり？
ほなみ　そうじゃなくて。
ロミ　何いい子ぶってんのよ。私そういうのって大嫌い。あんたも行きたきゃ行けばいいじゃない。あんたの下手な芝居見てると、こっちがうんざりするの。どうせあんたも私のこと嫌なんでしょ。
ほなみ　そんなこと…。
ロミ　行きたければ行けばいいじゃない。大体あんたいつも人についてばっかりで鬱陶しいのよ。迷惑なのよ。
絵里香　ほなみ、こっちおいで。
響　おい、ロミ。
ロミ　うるさい！
絵里香　うるさいのはあんたよ。
ロミ　うるさくしたのは誰のせい？
絵里香　あんた自身でしょうが。
ロミ　私は悪くない。
悠人　ロミ、おまえらしくないぞ。
ロミ　絵里香、あんた机とイス要らないって言ったわよね。
えりか　言ったよ。
ロミ　だったら、この机とイス、私がもらう。私、今日から机二つ使うわ。
ロミ、絵里香の机を動かして、二つ並べる。
悠人　ロミ、お前最低な女だな。
ロミ　最低？最低な女だって…悠人ー、あんたの机とイス、要らないわよね？
ロミ、悠人の机を動かし、さっきの二つに並べる。

---

響　そんなに机とイスが欲しいんだったらさ、やるよ、これ。
響、机を動かす。全員、机を動かして並べていく。
ロミ　あーら、私の机こんなに広くなっちゃった。
弘樹、机を動かす。
弘樹　大事に使ってね。
悠人　座れよ。（ロミに向かって）
響　何で座らねえんだよ。
悠人　イスも全部いるんだろ。
響　やるよ。
生徒たち、イスを並べていく。先生、登場。
先生　掃除終わったか？
將充　終わりました。
先生　お前ら何で床に座ってるんだ？
絵里香　正直になろうとしただけです。
先生　は？ロミ、何だこの机。
ロミ　みんな机とイスに感謝してないんです。
先生　お前らそこでいいのか？
響　いや、これは…。
悠人　響…俺たちはここでいいです。
先生　そうか。じゃあ今日の連絡事項書いておきます。
ロミ、泣き出す。
先生　ロミ、どうした？なんか、あったのか…？
さくら、ロミに近づく。
さくら　ハンカチさんはね、涙を拭くためにあるんだよ。
ロミ、号泣。絵里香、ロミに近づく。
絵里香　汚いけど、よかったらどう。
ロミ　本当に汚い。
生徒たちみんな泣く。
暗転

七場

休み時間の教室。机は中央に寄せてあり、その周りに生徒たちが立っている。

悠人　いくぞ、せぇーの。
イス取りゲームが始まる。悠人、はずれる。
悠人　なんだよ、また俺かよ。
絵里香　ホント、悠人とろいよね。
悠人　やっぱりエアーイス取りは難しい。
響　それはお前だけだろ。
さくら　さくら、こっちの方が楽しいもん。
悠人　やっぱりイス取りはさ、ちゃんとしたイス使ってやろうよ。
ロミ　そんなことしたらイスが壊れるでしょ。
ほなみ　イスさんに悪いから新しいゲーム考えたんじゃん。
将充　新しい感覚って、俺好きだな。
大佑　将充君、それはナウいですね。
絵里香　それは古い。
弘樹　チョベリバ。
さくら　悠人くん、エアーイス取りでも男になって。
悠人　わかった。大佑のためにも頑張る。
大佑　え？
悠人　いくぞ！
ゲーム再開。必殺シリーズの音楽流れる。
ロミ　先生だ。
絵里香　今日はどこから？
さくら　いない。（教卓の中を見て）
将充　いない。（掃除道具ロッカーの中を見て）
ロミ　どこ？
全員　どこ？
台の中央の壁が開いて、そこから先生、登場。
先生　ジャカジャン。
全員　先生！
先生　おまえらはまた遊んでたのか。
将充　いいじゃないですか。
先生　よくない。いつも言ってるだろう。勉強道具を…。
さくら　先生、何も使ってない。
先生　は？
悠人　俺たち、机もイスも何も使ってないよな。
全員　うん。
先生　じゃあ、何をしてたんだ？
大佑　エアーイス取りゲームです。
先生　器用な奴らだな。
ロミ　先生、授業始めましょう。
先生　そうだな、号令。
ロミ　起立、礼、着席。
生徒たち、中央に集められた机の周囲に向かい合って座る。
先生　お前らそんな形で授業受けるのか。
全員　はい。
先生　俺に背を向けて授業を受けるのか。
全員　はい。
絵里香　私たち考えることにしたんです。
先生　何を？
大佑　先生のおっしゃった感謝の気持ちについて。
先生　感謝？
悠人　物とか親とか友達とか。
先生　それはいいことだな。
全員　はい。

絵里香　だからこのままの形で授業を受けさせてください。
先生　それとこの形になんの関係があるんだ？
ロミ　お互いの顔を見ながら理解を深めたいんです。
響　それが感謝の気持ちにつながる気がするんです。
先生　そうか？
全員　はい。
先生　そこまで言うならしょうがない。授業始めるぞ。
全員　はい。
先生　じゃあ年号クイズから。鳴くよウグイス。
全員　平安京。
先生　いい国作ろう。
全員　鎌倉幕府。
先生　白紙に戻そう。
將充　再生紙。
生徒、和気藹々と騒ぐ。
先生　ちょっと待て。
さくら　何ですか？
先生　やっぱりこの形はおかしい。
ロミ　だから、この形でお互いの顔を見たいんです。
弘樹　僕たちお互いの顔を見ながら理解しあいたいんです。
ほなみ　感謝の気持ちを感じたいんです。
先生　俺もお前たちと理解し合いたい。
弘樹　どうぞ。
先生　この形じゃ無理だ。
將充　じゃあどうしたらいいんですか？
先生　おれの顔を見て授業を受けろ。（黒板の前から中央に来る）
將充　先生、ここで授業するんですか？
先生　そうだ。
絵里香　先生、見えません。

---

先生　じゃあ、これならどうだ。（イスを机の上に乗せ、座る）
悠人　イスを机の上にあげるんですか。
先生　悪いか？
ほなみ　先生。
響　机の上に乗っちゃいけないって言ったのは先生でしょ。
先生　俺はお前たちの顔を見て授業したいんだ。
さくら　神様に怒られちゃうでしょ。
先生　神様からここに乗ってもいいというお告げがあったんだ。
絵里香　どんな神様？
先生　言い訳の神。
生徒たち、口々に騒ぐ。
先生　やかましい！今月の目標！
全員　『先生を大切に』！
先生　だったら俺を大切にしろ！
悠人　はーい。集合！
他クラスの生徒や先生たちが入ってきて、いっしょに騒ぐ。
幕